

第一部 科学技術の基本問題から 9

- 1 エネルギー論の形成と風土
——学の融合と拡散としての結節概念と学派の役割 金子 務 10
- 2 エネルギーの起源について 池内 了 49
- 3 風の歴史——人類との共存を考える 廣田 勇 65
- 4 科学史・技術史におけるエネルギー概念 橋本毅彦 74
- 5 湯川秀樹たち物理学者と原子力 小沼通二 90
- 6 福島県におけるエネルギー開発の盛衰史 荒川 紘 129

第二部 生命とエネルギーの観点 159

- 7 一九世紀末の物理科学的な世界観と生命論
——Vitalismとは何であったか 米本昌平 160
- 8 心身一元論者からみたエネルギー 斎藤成也 171

- 9 労働とエネルギー 小木和孝 184

- 10 生命エネルギーと修行の原理
——宗教体験におけるミクロコスモスとマクロコスモス 正木 晃 201

第三部 文化史・学問論の立場から 219

- 11 エネルギーの文化史へ——概念変容をめぐる覚書 鈴木貞美 220
- 12 二一世紀のための教養——学術の連環 赤木昭夫 272